

特別講演 3

動物とともに



九州自然動物公園アフリカンサファリ

園長 神田 岳委先生

小学生低学年の頃は、警察犬の訓練士になりたいとおもっていました。テレビ番組の影響です。小3になると我が家でも犬を迎えて飼育を開始しました。犬と一緒にいる時間は本当に楽しくて、友人宅に行く時も一緒にお出かけするほどでした。

犬との生活は順調でしたが、ある日学校から自宅に戻るとパタリと倒れた犬の姿を発見しました。慌てて父に連絡を取り、近くの獣医さんに往診して頂きました。白髪の先生は神妙な顔で診察を行い、注射をしてくれたのです。すると30分後に我が犬は起き上がろうとし、1時間後には歩けるようになったのです。その瞬間、我が犬を助けてくれた白髪先生がかっこよく思え「この人のようにになりたい。獣医になりたい」と思ったのです。



中学校、高校とその夢は膨らむばかりで、運よく獣医大学に進学できました。順調では無かったですが、無事に獣医師免許も取得でき卒業の見込みになりました。

獣医師の就職先は多様です。そのころ何のプランも決めてなかった私は、ぼんやりと「獣医になったら何をしようかな」と考える程度でした。そんなある日「ライオンって可愛いな」と思う自分がいました。それはリメイクのアニメ「ジャングル大帝レオ」を観た事が原因です。これまたテレビ番組の影響です。

ライオンと一緒に仕事をする。ライオンを治療したい。ライオンの傍にいたい。そこで現在の職場であるアフリカンサファリに突然電話をかけ、就職希望を伝えると即決定の返事があり、数分で就職が決まりました。今となってみれば、ライオンやサファリと不思議な関係を感じます。

今ではアフリカンサファリの獣医師になって26年が経ちました。獣医師としての仕事はさまざまな動物種、症例に対応しなければならず大変な日々です。治療中の動物から攻撃され、危険な目にもあいました。何日もほとんど睡眠をとれずに治療したこともあります。

そんな経験の中で関係したサファリの動物たちが好きです。今でも時にライオンの事が、大好きです。ずっと好きなのです。どうして好きかと問われれば、色々な理由をいう事ができます。ライオンは、ネコ科なのに群れを作るやさしさが好き。オスライオンのタテガミがカッコいい。大きな口や手は迫力がある。赤ちゃんが小さくて可愛い…などなど理由付けすればいくらでも出てきます。しかし、そんな理由は別として単純にライオンが「好き」なのです。

こうも言えます。ライオンが好きでアフリカンサファリで働いています。さまざまなライオンに関係する業務もしてきました。治療、飼育、赤ちゃんの人工哺育。もちろん私にとっては仕事ですので良い

ことも、悪いこともあります。出産があれば嬉しく、亡くなってしまうと悲しい…。そのような時に、産まれば「この子にこうしてあげよう!」、亡くなれば「こうしてあげればよかった。」と毎回思います。

これは飼育員や獣医師だから思う事ではありません。みなさんも動物と生活している中で、意識なく思っていることです。動物に何をしてあげれば良いかは、とても難しい事です。一頭一頭、習性も性格も何もかも違いますから。



では、どうすればいいのか?もちろん、飼育する前にも飼育中にもその動物自体を知る事は基本です。基本が無ければ、個別に対応する事なんて出来ないですから。知りすぎて悪いこともありません。

でも私が思う大事な事は、「好き」になる事です。好きだから動物を飼うのは当たり前ですが、もっと好きに、周りの皆さんにも好きになって欲しいのです。そして「自分がされたら嬉しい事」を動物にしてください。するといつか飼育動物も良い顔で笑うかもしれません。

その時にはきっと皆さんも周りの皆さんも笑顔になっているに違いありません。それが「飼育」だと思ふのです。

私は獣医師と言うより、動物たちと人間を繋ぐ「通訳」のような存在になりたいと思っています。動物の気持ちが理解できるか?それは誰でも難しいでしょう。ただ好きでいる事で、より動物の気持ちに寄り添い、少しでも理解できるようになるのではないかと考えています。その内容を、子ども達に伝えていきたいと思っています。そうすることで動物への理解が進み、様々な動物保護や環境保全にも役立てるのではないかと感じています。ただ「通訳」の責任は重く、間違った翻訳を行えば大きな誤解を生むことも認識しています。

いつか動物たちが「通訳してくれてありがとう」と言ってくれる日を思いながら、日々頑張ります。はたしてそんな日がくるのでしょうか…。ちなみにこの原稿の写真は、私が撮影したものです。可愛いですね??申し訳ないですが、単なる我が子自慢です。

